# 愛知県被災者支援センターニュース 第98号 平成30年8月25日発行

# あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター

住所:名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎1階

 ${\rm TEL}: 052\text{-}954\text{-}6722$ 

FAX: 052-954-6993

開館:月曜~金曜 10時~17時 ■深



#### 「ビーズアクセサリー作りはお手の物」

趣味のビーズアクセサリー。写真 は、基本のパターンを繰り返していく 作り方です。色や形の組み合わせによ って、雰囲気が変わりますよ。

#### ▼ラリアットネックレス





▲ブレスレット

K.I さん・作

9月12日(水) 開催のあおぞらカフェ で、写真右のブレスレットを作ります。同封 のチラシをご覧いただき、興味のある方は、 ぜひお申し込みください。

#### ≪もくじ≫

<b>""</b>
インタビュー ぐんま暮らし応援会・・・・・2
森林浴・石窯交流会・・・・・3
9 月イベント情報・・・・・・・4
草隼中   あおぞらカフェ・・・・ /

福島県が全国 26 か所に設置している生活再建支援拠点の一つ「ぐんま暮らし応援会」事務局長の灰野甲子郎さんにお話しをお聞きしました。独立型社会福祉士事務所長でもある灰野さんらしい熱い思いが伝わってきます。



#### **――開設はいつですか?**

平成24年9月に群馬県内のボランティア団体、NPO、各行政が協力して活動を始めました。当初は県内に3000名余りの方が避難されていました。現在(5月17日時点)は、762名です。

#### ――活動の特色はどんなところですか?

主な活動は、支援員による訪問、集いの会、ニュースレター(広報誌)の発行・配布、Facebookによる情報発信、相談等ですが、どの活動でも『誰のため、何のために行うのか』という視点を大切にしています。避難者の方たちが求めていることは何か、支援者である私たちが今やるべきことは何か、両方をしっかり意識して丁寧に活動しています。



▲交流会の様子

#### ――特に大切にしていることはありますか?

避難者の方が、今生活している地域で安心して 生活できるように、私たちの支援は『地域密着型』 です。相談を受けたら、その方がお住いの地域で 行政や専門機関等と連携をとって支援します。そしてもう一つ、避難元とのつながりも大切にしています。群馬県は浪江町からの避難者が多いのですが、浪江町復興支援員群馬県駐在事務所は平成29年度末で閉鎖されました。そのため、故郷への思いまで遠く心細くなってしまわないように、バ

スツアーを企画 しています。み なさんの日々の 生活にも、心に も、寄り添って いくことを何よ



り大切にしています。

▲集いの会

#### ――みなさんへメッセージをお願いします。

東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故 以降、福島県がおかれた環境は、私たちの想像を はるかに超える厳しい状況だと思います。

それは今でも避難生活を強いられていることに 変わることはありません。

このため、私たちに出来ることは、可能な限り 避難者に寄り添い、受け止め、共に共有できる組 織的支援活動であろう。

誰でもが日常生活の中で、以前のように「当たり前の生活が当たり前にできる生活保証」ではないでしょうか。

その日が来るまで、共に復興に向け力を合わせ 頑張りましょう!

(インタビュアー あおぞら編集委員 菊池邦子)

### 

7月22日(日)に「森林浴・石窯交流会」が、森林に囲まれた緑豊かな里山の中にあるエトセ工房で開かれました。主に三河地域から5世帯16名(大人10名、子ども6名)の参加者と、実行委員会代表のNPO法人 風舎 磯貝さんのお仲間約40名の方々が一緒に、石窯でピザを焼きながら交流する楽しいひとときを過ごしました。



▲エトセ工房(NPO 法人 風舎)の位置

=風舎ピザ実行委員会 代表 磯貝安道さん=

家具作りをするため、岡崎市石原町(旧額田町) へ移住し、<u>エトセ工房</u>を開設されました。 現在では、石窯の製作なども行っています。

その後、同地で NPO 法人 風舎を立ち上げられました。自然豊かな中で子育てができる環境でありながら、最近は地域の過疎化・高齢化で里山が荒廃していくのを残念に思われ、環境保全や農・食育などの活動を通して地域の再生・活性化をめざして活動されています。

※妻の幸子さんは、あおぞら第 93 号「おかざき交流 会」に登場されています。



▲木漏れ日の下、小川で遊ぶ子どもたち

岡崎市中心街よりも気温が低いとはいえ、この 日は汗ばむ陽気。子どもたちは、近くの川で泳い だり魚を探したり、涼しい水辺で遊びました。

磯貝さん製作の石窯にはまきがくべられ、天然 酵母のピザ生地や手作りトマトソースなど安心 して食べられる材料が用意され準備は万端。

ここからは、一人ひとりオリジナルのピザ作りです。生地を丸く伸ばし、トマトソースを塗り、地元の野菜やチーズをトッピング。石窯に運び、慣れない手つきで回転パラを使い、回しながら焼くと、生地はこんがり、チーズはとろ~り焼きあがりました。「自分で作ったんだ!」と子どもたちの自慢げな表情。子どもも大人も混ざりあって作り、分け合いながら食べていると、自然に笑顔がこぼれます。

石窯ピザの芳醇な香りに包まれる木陰での森 林浴に癒され、ハーブティーを飲んだり、かき氷 を食べながら、新たな出会いに話が弾んでいまし た。



▲生地を伸ばし、思い思いにトッピングする参加者

次回は、II月ごろに予定されています。 今回参加できなかった方もぜひお楽しみに。

(あおぞら編集委員 戸村京子)



猛暑を乗り越え、朝夕は涼しい風が通り抜けるようになりましたね。初めての方も交流会に参加してみませんか?

開催日	イベント名	内容	最寄駅
12日(水)	あおぞらカフェ 趣味を広げよう!ビーズでブ レスレットを作ろう!	表紙の写真のようなブレスレット を作ってみましょう!	地下鉄「市役所」 名鉄瀬戸線「東大手」
30日(日)	ふくしま交流会 ※後日、案内を送付します	福島県から避難されてきた方を対象。相談だけでなく、抹茶やアロマ ハンドトリートメントもあり!	JR・名鉄「豊橋」 豊橋鉄道「新豊橋」

※イベントの一部を掲載しています。その他のイベントや申込先などの詳細は、同封(前月号に同封している場合もあります)のチラシをご覧ください。

## 募集中!あおぞらカフェ

被災者支援センターの中に、避難者の皆さんの活動のチラシを置いて情報交換ができたり、ほっと一息つけるコーナーとして、『あおぞらカフェ』を設けています。

- ・私の防災、食について、これからの生活など、話したい希望のテーマ
- ・アクセサリー作り、整理術・断捨離など「私が教えられるよ!」という趣味・特技 を募集しています。

問合せ先・場所 メールフォーム**⇒** 

●住所:〒460-000|名古屋市中区三の丸 3-2-|愛知県東大手庁舎|階



編

集

後

記

・"洗濯物は幸せの象徴だ。生きているから洗えるんだ。"好きなシンガーソングライターNUU さんの歌です。今年はかなり暑い!けれど、青空になびく洗濯物を見ていると誇らしい気分で す。(Y.S)

・豪雨災害を取材した番組で、被災者さんが被災体験のあるボランティアさんから、「建物を整理する前に写真を撮って」とアドバイスをもらい、とても助かったと言っていました。その効果か今回は罹災証明依頼の時に写真を持ち込む人が多いそうです。助け合いにとても感動しました。(Y.Y)

・「伊那谷親子リフレッシュツアー」にボランティア参加。ツアーを支えるのは、地域の人と各地からの避難者も。子ども達は「来年も来たい!」とバスから手を振って福島へ帰った。(K.T)

- ・ミルクレープを作りました。楽しく作れて、おいしくて... 幸せな気分になります。(H.S)
- ・イタリア旅行に行きました。市民力の違いが大きかったです。(H.T)

